

## モンゴル国アウラガ遺跡におけるチンギス=カン宮殿・霊廟址の調査

白石 典之（新潟大学人文学部）

### 1. アウラガ遺跡

モンゴル国ヘンティ県デリゲル=ハーン郡アウラガ遺跡、東西1200m、南北500mの範囲に大小の建物跡が残る。ほぼ中央にある一辺約30mの方形基壇を中心に、その左右（東西）に小型建物基壇が、鳥が羽を広げたように、延びているという遺構配置。

#### 関連史料

『元史』巻1太祖本紀：「六年辛未春、帝居怯緑連河。」「十一年丙子春、還廬■（月偏に句）河行宮。」『元史』巻2太宗本紀：「（太宗四年）十二月、如太祖行宮。」

『黒韃事略』（彭大雅）：「独曰大窩裏陀」、「其地卷阿、負坡阜以殺風勢」、「主帳南向独居前列、妾婦次之。」

### 2. アウラガ遺跡の発掘

中央基壇（第1建物跡）の発掘。2001年から。4時期の文化層が重なって検出された。

表1 第1基壇検出の各遺構の特徴（年代はC-14および出土陶磁器）

段階	一辺の長さ	平面プラン	上屋	柱基礎	年代	性格
上部建物 （第 期）	11m （宋/元35尺）	正方形	テント	礎石 掘っ立て柱	13世紀第 四 半期～15世紀 第 四半期	霊廟
無建物 （第 期）	-	-	-	-	13世紀第 四 半期	祭祀場？
下部建物 （第 期）	19m （宋60尺）	方形	テント	礎石 掘っ立て柱	13世紀第 四 半期～第 四 半期	オゴダイの 宮殿 霊廟
最下部建物 （第 期）	17.4m （宋55尺or 唐 60尺）	方形	テント	掘っ立て柱	12世紀第 四 半期～13世紀 第 四半期	チンギスの 宮殿

オゴダイは即位後、チンギスの宮殿を改造。その技術者は劉敏、彼はカラコルム万安宮建造の責任者。

#### 関連史料

『元史』巻153 劉敏伝：「己丑（1229年）、太宗即位、改造行宮幄殿」

『遺山先生文集』巻26 大丞相劉氏先塋神道碑：「行宮改新帳殿、城和林起萬安之閣宮闈司局、皆公發之。」

### 3. チンギス=ハーン祭祀の痕跡

宮殿基壇裾、13世紀第Ⅱ四半期～第Ⅲ四半期の地層から家畜動物を犠牲とする儀式の場。

\* 基壇西裾では、ウシ頭骨、両角は鋭利な刃物で切断。

\* 皇帝の即位儀礼と関連。その儀礼はチンギス=ハーン廟で行った。

#### 関連史料

『元朝秘史』巻3:121節：「コルチが来て言うのに（中略）角のなき淡黄色の牛は大なる下床を上にもちあげ、それを駕し拽きて、テムヂンの後えより大道を吼えしつつ近づき来るに、天地相和して『テムヂン、国の主たれ』とて国を載せ持ち来たる。かく、神のお告げを己が目に見せ、我に告ぐ。（下略）」

『元史』巻29 泰定帝本紀：「（至治3[1323]）年、（泰定帝）於成吉思皇帝の大斡耳朵裏、大位次裏坐了也。」

\* 基壇東裾からはウマ肋骨が300本以上集積した遺構。

\* 牝ウマのアバラ骨のうち、とくに大きな4本のアバラ骨「ドゥルブン=ウンドル（4つの尊きもの）」をチンギス祭祀に（Mostaert,1956:280-281）。

\* 元代のウマの犠牲、宗廟の大祭。

\* チンギス祭祀と関連。

#### 関連史料

『草木子』巻3下雑制篇：「元朝人死、致祭曰焼飯、其大祭則焼馬。」

『元史』巻74 祭祀志：「凡大祭祀、尤貴馬■（さんずいに重）。将太僕司寺■（手偏に同）馬官、奉尚飲者革囊盛送焉。其馬牲既與三牲同登于俎、而割奠之饌、復與籩豆俱設。将奠牲盤■（将の偏が西）馬■（さんずいに重）、則蒙古太祝升詣第一座、呼帝后神諱、以致祭年月数、牲畜品物、致其祝語。以次詣列室、皆如之。礼畢、則以割奠之余、撒於南樞星門外、名曰拋撒茶飯。蓋以国事礼行事、尤其所重也。」

### 4. 霊廟の成立と変遷

(1) カラコルム建都（1235年）以降、1257年までには祭祀場化、下部建物を霊廟として。

#### 関連史料

『元史』巻3 憲宗本紀：「（1257年）夏六月、謁太祖行宮、祭旗鼓。」

(2) 下部建物がなくなり、無建物化。

#### 関連史料

『元朝名臣事略』巻3之3 枢密句容武毅王：「至元十四（1277）年、諸王脱脱木、失烈吉叛、北平諸部暨祖宗所建大帳、盡為所掠。」

『元史』巻128 土土哈伝：「（至元）十五（1278）年（中略）還朝、帝召至榻前、親慰勞之（中略）仍賜以奪回所掠大帳。」

(3) カマラ晋王として、大オールドに着任。霊廟の管理。霊廟の再建。

#### 関連史料

『集史』テムル=カアン紀：「彼（晋王カマラ）は（中略）ブルカン=カルドゥンと呼ばれるチンギス=カンの大禁区（墓地）を統轄した。そこにはチンギス=カンの大オールドスそのままある。これらはカマラにより守られている。4つの大オールドスとその他5つ（のオールドス）、全部で9つがある。（そこは禁区に近いので）誰もそこに近づくことはできない。そこには彼ら（先帝）の肖像画が飾られ、いつも香が焚かれている。」

『元史』卷115 顯宗伝：「[至元]二十九（1292）年、改封晋王、移鎮北辺、統領太祖四大斡耳朵及軍馬、達達国土（中略）[大德]六（1302）年正月乙巳、王薨、年四十。」

#### まとめ

考古学による実証的研究と、従来の文献史学的研究の再評価。

- \* チンギス=ハーン廟成立は、漠北モンゴル高原の、チンギスの大オールド。
- \* チンギスが建て、オゴダイが改造した、宮殿テントが霊廟。
- \* その年代は、1235年～1257年の間。
- \* この建物は13世紀第IV四半期に消失。
- \* 13世紀末から14世紀初頭の間、消失した宮殿と同じ場所に、新たな霊廟。
- \* この霊廟は、元朝滅亡後、15世紀第III四半期まで同地に留まっていた。
- \* 内モン古河套地域への移動は、15世紀末から16世紀初頭。
- \* エゼン=ホローの廟は、アウラガの廟に倣い再建。

#### 史料・参考文献

- Andrews, P. 1981 The tents of Chingghis Qan at Ejen Qoriy-a and their authenticity. *Journal of the Anglo-Mongolian Society*. Vol.7-2, pp.1-49,
- Mostaert, A. 1956 Matériaux ethnographiques relatifs aux Mongols Ordos. *Central Asiatic Journal* .vol.2, pp.241-294, Wiesbaden.
- 白石典之 2001 『チンギス=カンの考古学』世界の考古学⑩、同成社、東京
- 白石典之 2002 『モンゴル帝国史の考古学的研究』同成社、東京
- 『遺山先生文集』（[元]元好問撰）：『四部叢刊』222、上海書店、上海、1989
- 『元史』（[明]宋濂撰）：『元史』中華書局（校点本）、北京、1976
- 『黒韃事略』（[宋]彭大雅撰・徐霆疏）：王国維 1928「黒韃事略箋證」『海寧王静安先生遺書』卷37、石印本
- 『元朝秘史』：小澤重男（訳註）1997『元朝秘史』（上）岩波文庫、東京
- 『蒙古源流』（サガン=セチェン）：烏蘭 2000『<蒙古源流>研究』中国蒙古学文庫、遼寧民族出版社、瀋陽
- 『集史（*Jāmi' al-Tavārīkh*）』（Rashīd al-Dīn）：Boyle, J.A.(trans.)1971 *The Successors of Genghis Khan*. Columbia U.P. New York
- 『草木子』（[明]葉子奇撰）：『草木子』元明史料筆記叢刊、中華書局、北京、1997（初版1959）